



和崎 春日

WAZAKI Haruka

教授 国際関係学部国際文化学科

【学位】博士(社会学)(慶応義塾大学)

【学歴】慶応義塾大学大学院社会学研究科

専門分野 文化人類学、社会学、都市人類学、アフリカ地域研究、イスラーム社会論

研究テーマ 南北論、国際協力、発展途上社会への協力のあり方、日本社会の国際化・グローバル化の中での生き方、移民論、多民族共生のあり方、都市祭礼・イベント論、日本の都市社会における経済と文化の並行発展・バランス

メッセージ

私は、比較文化論を旨とする文化人類学とアフリカ研究を中心に、この40年の間、学を蓄積してきました。アフリカには、30年前から28回、生活調査に訪れ、その街や村での生活滞在は合計6年ほどを数えるまでになりました。当地のことは、アフリカ言語の一つ・バムン語で人びととコミュニケーションできるようになり、アフリカの「普通の」人びとの生活実感を体感できるようになりました。その磁場から日本社会の南側社会への係わり方を望むと、「おかしい」ことが目につきます。現行の、南の国々にあるいわゆる「貧しい」社会への協力のあり方、日本の南側社会との関係の結び方、姉妹都市の結び方などには、多くの疑問点を発見しますし、さらには何とかその矛盾を乗り越えるそれなりの糸口(ノウハウ)・要諦を発見してきたように自負しています。日本社会は、日本にすでに深くしみ込んだ遠来のアフリカ人やモスLEM(イスラーム教徒)やアジア、南米の人びとの当地の文化や日本での生き方を知らなさすぎます。春日井市、名古屋市、中部地区の各都市や町々は、多くの諸外国からの来住者や滞在者に、充ちています。異文化の土地に国際協力のもとに行ったり工場進出したりするなかで、そして日本で、価値観がぶつかり合うなかで、どう共に生きるか。グローバル化のなかで、そのことばの持つ「ウワついた」感覚に振り回されることなく、否応なく混ざり合って生きていかざるを得ない現代の足場を、企業や行政や地位社会の人びととともに考えていきたいと思えます。

また、そのことは、自文化伝統を維持しつつ他者を受け入れたり、他価値を受容しつつ経済を発展させたりしていかななくてはならない、日本のすべての地域社会がもつ課題と必然的に関わります。このことを、もう一つの私の専門領域である「日本の都市の祭り的人类学的研究」から、「経済発展と文化継承・文化尊厳」の並行推進や弁証法的な活かしあいの道の回路を、皆さんとともに探っていきたいと考えています。

研究紹介

日本社会の「国際化」「グローバル化」の中での私たちの生き方をめぐって今日まで行ってきた主な共同プロジェクト:

- ・「来住アフリカ人の相互扶助と日本人との共生に関する都市人類学的研究」
(日本学術振興会・科研費・基盤研究、代表・和崎春日)
- ・「滞日アフリカ人の生活戦略と日本社会における多民族共生に関する都市人類学的研究」
(東京圏、名古屋圏、京阪神の3大大都市圏調査)
(日本学術振興会・科研費・基盤研究、代表・和崎春日)
- ・「名古屋市における多民族共生」
(在日ブラジル人、ペルー人を中心とした名古屋市港区団地における共生様態の調査研究)
(名古屋市委託金、代表・今津孝次郎)
- ・「名古屋・東海地域における多民族共生」
(在日イスラーム教徒、フィリピン人を中心とした共生様態の調査研究)
(名古屋大学総長経費、代表・和崎春日)